事業所名 グループホーム青空
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年 1月11日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 高等学校非常勤講師
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター
B:現職 障害者自立支援調査員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳を大切にし、明るく穏やかな生活ができるように支援している。 ・健康で暮らせることを目指し、医療機関の協力のもと、健康管理には十分な配慮をしている。 ・自立支援を目指し、残された機能が最大限に発揮できるよう支援している。そのため、何から何までお世話するのではなく、もてる能力が活かされ、自分のことは自分でできるような生活を支援している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の話をよく聴く、落ち着く環境を整える、入居者の気持ちに寄り添うことなどを心がけている。 ・落ち着かない理由を考え、外に出たいときには一緒に歩いて行く、家の様子が気になる方には近くまで一緒に行って納得していただくなどの支援をしている。住み慣れた地域の友人宅を、職員と一緒に訪問した入居者もある。 ・メリハリのある生活を心がけ、ホーム内で行事を頻回に企画したり、地域の行事と一緒に参加するような生活を支援している。年間を通して、これらの活動が盛んである。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

調評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・国道から少し中に入った、緑に囲まれたロケーションの良い場所に立地するグループホームである。グループホームの周りは、のどかな風景が広がるが、町の中心部に近く、スーパーマーケットやホームセンター、病院などもあり、生活の利便性も良い。 ・「青空のようにすがすがしく」、「明るく穏やかな暮らし」を目指した「青空」というネーミングは、職員から公募して取り入れられた。入居者の日々の生活も、こうあってほしいと願うグループホームの理念は、職員によって日々実践されている。入居者は、それぞれ個性を発揮しながら、穏やかに楽しそうに生活している。 ・医療法人が運営するグループホームである。代表者は、精神科医であり、認知症に対する知見も深い。医師と看護師の定期的な見守り・指導を受けながら、健康に留意した生活を送っている。 ・各居室は、入居者の性格や今までの暮らしぶりがよく分かる個性的な環境である。安心して過ごせる場所で、一人ひとりが生き生きと生活できていることがうかがえる。 ・管理者や職員からは、今よりもさらに良くしたいという熱意が伝わってくる。入居者のことをもっと知ることができたら、もっと良い言葉掛けができるのではないかと前向きな姿勢は、好感が持てる。要介護度5の入居者が、入居当時はほとんど寝たきりで認知症による混乱も見られたが、3ヵ月後には落ち着いて生活できるようになったという例もある。 ・職員数が余裕を持って確保できており、入居者に寄り添ったゆとりのある良い介護が実践できている。職員の異動が少ないことも、入居者との馴染みの関係を作るという点において評価できる。
特に改善の余地があると思われる点(記述) 特に見当たらなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・「入居者の気持ちや、さらに知ることができたら・・・」という職員の気持ちは、入居者が人生でやり残したこと、心残りのことを引き出せるよう、心のより深いところで関わりあえる関係を作ることによって、実現できるものであると期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活歴を把握し、日常の生活で生かされるように支援している。野菜作りの好きな方は、野菜が作れなかったらここには来なかったというくらい、のめり込んで、生き生きとしている。 ・入居者が、落ち着いて打ち込めるものを見極めたり、一人ひとりの持てる力を引き出し、必要以上に手を出さないような支援を心がけている。 ・個人記録のファイルはインシヤルで表示、面会簿はカード式に、居室の表示は必要以上にしないなど、個人のプライバシーに配慮している。 ・写真の掲示・掲載は家族の了解を得る、不要になった書類はシュレッダーにかけるなど、個人情報の保護に配慮している。 ・入室時には、必ず「ノックし」「しましょ」「入っていいですか」などの声かけをし、了解を得ている。ドアが開いたとき室内が外から見えないよう暖簾をかけるなどの配慮をしている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質の向上に向け、積極的に研修の機会を作っている。グループホームでは、「緊急時の対応」、「ケアプラン」、「介護報酬改正について」、「認知症について」や、外部研修を受けた方の伝達講習などを実施している。外部の研修案内も職員に紹介し、勤務時間内で出席できるよう配慮している。 ・毎月1回、入居者も参加して、防災訓練を実施している。また、入居者の状況に合わせて、浴室やトイレの手すりの位置を変えるなど、安全面への配慮が見られる。 ・事故、ヒヤリ・ハット報告書があり、事故防止、再発防止に向けての取り組みが見られた。事故報告書は、入居者の身体状況を図示しており、分かりやすい書式であると感じた。 ・マンネリ化を防ぐ意識や取り組みが見られる。ユニット間の試食会などもその取り組みの一つである。 		